

<p style="text-align: center;">教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>心豊かでたくましく生きる子どもの育成</p> <p>(めざす子ども像) よく考える子 助け合う子 元気な子</p>	<p style="text-align: center;">今年度の指導の重点</p> <p>(1)学ぶ意欲の育成、基礎基本の定着 確かな学力の育成のために「5つのしっかり(聞く・話す・書く・読む・続ける)」を身につけさせる。 学習時間と生活時間のけじめをつける。</p> <p>(2)心の教育の充実 5つの約束(静かに聞く・時間を守る・あいさつをする・くつをそろえる・時間いっぱいそうじをする)の定着・習慣化を図る。</p> <p>(3)体力向上と健康増進 体力・運動能力の向上に努める。</p>
<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国 算数Aについては、正答率が県平均とほぼ同程度である。 国語A、B、算数Bについては、正答率は県平均を下回る。 算数Aの「数量関係」領域については県平均よりも正答率が高い。 国語の「読むこと」についての領域で課題が残る。</p> <p>県 理科Aについては、正答率が県平均とほぼ同程度である。 国語、算数、社会については、正答率は県平均を下回る。 国語、社会A、理科については、県平均との差が昨年よりも縮まった。 国語の漢字の読みは9割以上できていた。 国語の「書くこと」に関わる問題の正答率が低かった。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>テレビ等の視聴時間は、県平均並みである。 平日にゲームを1時間以上している割合は県平均より低い、3時間以上している割合は高く、二極化の傾向がある。 家庭学習の時間が1時間以上の割合は、県平均とほぼ同じであるが、全く家庭学習をしない児童はいない。 読書時間が1時間以上、10分以上の割合は、県平均より高いが、全く読まない割合も高く、二極化の傾向にある。 近所の人にあいさつをしている児童の割合が県平均よりも高い。 地域の行事へ参加したり、自然の中での活動をしたりしている児童の割合が高い。 年上や年下の友だちと一緒に遊んでいる児童の割合が高い。 国語や算数の勉強は将来役に立つと考えている児童の割合が高い。 自分にはよいところがあると思う児童、達成感を感じている児童の割合が少し低い。 算数の勉強が好きな児童、新しい問題に出会ったとき、解いてみたいと思う児童の割合が県平均よりも高い。</p>
<p style="text-align: center;">成果と課題</p> <p>無回答率は県平均よりも低く、記述式の問題にも意欲的に取り組んでおり、児童の前向きな姿勢が感じられる。 校内研究で算数に取り組んだ成果もあり、算数の好きな児童の割合が高い。 国語の「読むこと」領域の学習内容の定着に課題がある。 算数の簡単な四則計算でミスが多い。 算数の筋道を立てて考えたり、説明したりする力に課題がある。 「トライ」や家庭学習のびき配布など家庭学習の定着に取り組んだ成果もあり、家庭学習時間0の児童がいなかった。しかし、目標時間達成や宿題全員提出には課題がある。 「ひまわりウィーク」(生活リズムチェック週間)に取り組んだ成果も表れ、テレビ視聴やゲームの時間が減っている。</p>	<p style="text-align: center;">課題に対応した改善方法</p> <p>朝学習で、既習の漢字の復習を行う。 朝学習などで、短い文章を読み取ったり、新聞記事の感想を書いたりする学習を行う。 朝学習で、算数の既習の四則計算の反復練習を行う。 授業の中で自分の思いや考えを書く場面を設ける。 授業の中に、ペアトークやグループ学習を導入し、児童が考えを出し合い、話し合う機会を設ける。 到達度確認テスト、読解力テストを活用する。 西中学校区 ・家庭学習(宿題)の100%提出をめざす。(トライ、PTA家庭学習定着週間などの取り組み) ・チャイム同時の授業スタート、チャイム同時終了。 ・授業の「めあて」と「まとめ」をはっきり提示する。 ・ていねいなことばづかいとくつそろえ(落ち着いた学習環境作り)</p>
<p style="text-align: center;">取組の検証方法及び検証時期</p> <p>先生の「学力向上にかかわるチェックシート」による振り返り(学期ごと)。 児童の「しっかりやくそくスマイルカード」での振り返り(毎月)...とくに、話す・聞くについて 児童へのアンケートの実施(12月) 計算チェックテストの実施(2月) 上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。</p>	<p style="text-align: center;">達成目標(数値目標)</p> <p>計算チェックテストで80点以上の児童が8割をめざす。 国語と算数において、単元テストの期待平均値を上回る児童が8割以上をめざす。 1時間の学習時間の中で、自分の考えを書く場面・説明する場面を週3回以上取り入れる。 家庭学習時間のめやすが守れている児童が8割以上をめざす。</p>